

SDGsの取り組みをチェックしてみましょう



SDGsとは？

- ・2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。
- ・経済・環境・社会などに関連する17個の目標が定められています。

いなべ市は「SDGs未来都市」に選定されました

【SDGs未来都市】

- ・SDGs (Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」) 達成に向けた優れた取組を提案した都市が選定されています。
- ・令和2年7月17日、令和2年度「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に、いなべ市が選定されました。

SDGs解説動画公開中！



SDGsって何？ 商売と関係あるの？

- ・SDGsは商売や環境・社会などを「持続可能(続けていける)にする」にはどうしたらよいか考えるヒントを与えてくれます。
- ・商売を持続可能とするためには、売上を計上する必要があります。そして、売上を計上するには仕入をし、販売をしていく必要があります。そこにはお客様や仕入先、原材料の栽培にともなう環境など、多くの人や事柄が関係します。
- ・つまり、自社の商売を続けていくには、様々な関係者への気づかいや協力が必要です。

まずは、「いなべ市版SDGsチェックシート」を活用し、身近な取り組みとSDGsとの関わりを確認してみてください！

「いなべ市版SDGsチェックシート」をご活用ください！

- ・本チェックシートにご回答頂くことでご商売とSDGsの関係をチェックすることができます。
- ・意外な活動がSDGsにつながっていることを知ることがSDGs達成への第一歩です。

お気軽にご回答ください

※既に今年度ご回答済みの事業者様は、ご回答不要です。認定証等の到着をお待ちください。

回答の流れ

WEBの場合

回答フォームにアクセス



回答フォーム入力

紙の場合

別紙シートに記入

ご案内担当者へ返却
または FAX
(FAX番号:059-228-9380)

ご回答頂いた皆様に「いなべSDGs推進実践事業者認定証」を贈呈します！

- ・ご回答頂いた事業者の皆様には、「いなべSDGs推進実践事業者認定証」をお届けします！
※ご回答状況に応じた認定証およびフィードバックレポートをお渡しします。
- ・また、初めてご回答頂いた事業者様には、「いなべSDGsオリジナルグッズ(個数限定)」も贈呈します。
※先着で配布のうえ、なくなり次第終了とさせていただきます。

自社のSDGs取り組みを確認してみてください！

いなべSDGs推進実践事業者認定証 & フィードバックレポート

いなべSDGsオリジナルグッズ (ヒノキ万年カレンダー)



継続回答で認定★(星)が増加します！

個数限定(先着順)

いなべ市版SDGsチェックシート

Q1.食べ残しを減らすことを意識または啓発している

該当の目標



◆ 人にも環境にもやさしい食品ロス削減

日本の食品ロス量は年間約522万トン、国民1人あたりお茶碗1杯分の食べ物が毎日捨てられています。食事を残さない、作りすぎないといった食品ロス削減を意識することは、食料不足で苦しむ人々を救うことに繋がります。また、食べ物の生産・廃棄で消費されるエネルギー使用量削減にも繋がるため、環境にもやさしい取り組みです。

Q3.簡易包装(エコバッグ、マイボトルの利用)に協力している

該当の目標



◆ エコバックを利用し、持続可能な社会を目指す

レジ袋やペットボトルなどのプラスチック製品の原料は石油です。1人1人が、簡易包装(エコバック、マイボトル)を利用することが、石油をはじめとする自然資源の保全に繋がります。積極的な簡易包装の利用を心がけ、将来にわたり自然資源を利用できる持続可能な社会を目指しましょう。

Q5.水の使用量を減らすことを意識または啓発している

該当の目標



◆ みんなが清潔で安全な環境で過ごすために

水は地球上にたくさんありますが、人が生活に使用できる資源としての水は無限ではありません。1人1人が意識し、必要最低限の使用を心がけることで、多くの人々がこれから先も水を使い続けられます。また、日々の水使用量を適正に保つことで、災害発生時における飲み水や生活水の確保など各種対応にも繋がります。

Q7.公共交通機関や自転車での移動を意識または啓発している

該当の目標



◆ とってもエコな公共交通機関

公共交通機関のCO2排出量は、自家用乗用車の約1/4(鉄道)・約1/2(バス)。地方の生活において、マイカー利用は日常的なことですが、少しでも電車やバスなどの公共交通機関や自転車・徒歩での移動を心掛けるだけで、CO2排出量が削減され、地球温暖化対策に繋がります。

Q9.車の運転は安全を意識または啓発している

該当の目標



◆ 1人1人の安全意識が地域・社会の安全に

自動車を運転する時は、事故をしないよう交通ルールを守り運転することが求められます。また、交通ルールにはなくても、道路状況により速度を緩め安全な速度で走行するといった、少しの安全配慮を運転者である1人1人がしっかり意識することで、地域・社会に住む全ての人が安心・安全に過ごせる環境をつくります。

Q2.環境へ配慮した電気の使用を意識または啓発している

該当の目標



◆ 自然資源の無駄遣いを減らし、次世代にも電気を

日本の電気の約7割は、石炭や天然ガスなどの自然資源を使用して発電されています。自然資源は量に限りがあるため、大切に使用しないとやがて枯渇してしまい、将来の電力使用が危ぶまれます。まずは身近な節電を意識するとともに、太陽光発電などの再生可能エネルギーの使用を進めることも検討してみましょう。

Q4.紙の印刷を減らすことを意識または啓発している

該当の目標



◆ 環境保全と同時にコストも削減

紙はもともと木材からできています。そのため、不要な紙の印刷をやめることで、過剰な森林伐採を減らすほか、森の生態系保全にも繋がります。その他、ペーパレス化を進めることで、紙代や印刷代、書類を保存するための保管費など、各種コスト削減を図ることができます。



Q6.自然や社会にやさしい原材料や素材の使用を意識または啓発している

該当の目標



◆ 環境ラベルという1つの目印

昨今、消費者が製品やサービスを選ぶにあたり、「自然にやさしい原材料を使っているか」「従業員がいきいきと働いているか」などのポイントが重要視されつつあります。「エコマーク」や「フェアトレードマーク」などの認証制度を活用することで、自然や社会にやさしい事業者としての姿勢を消費者に伝える一助となるでしょう。



Q8.エコカーの使用や燃費の良い運転を意識または啓発している

該当の目標



◆ 便利だからこそ使い方を意識しよう

電気自動車やハイブリッド車などのエコカーは、従来の自動車が使用する資源を使用せず、燃費は約2倍も良好です。たとえ、エコカーに乗っていなくても、「急ブレーキや急発進をしない」「不要な荷物はおろす」といったエコドライブを意識し習慣化することで、燃料消費量やCO2排出量を減らし、お財布にもやさしい取り組みになります。

Q10.地元事業者とのお付き合いを大切にしている

該当の目標



◆ 地産地消で社会にも環境にも良いサイクルを

地元で生産されたものを地元で消費することは、地元でお金を使うことであり、地元経済の活性化に繋がります。また、地元の外で生産物を消費するためには、生産物を運ぶためのエネルギーが消費されています。地産地消は、それらのエネルギー消費を削減でき、環境保全にも繋がります。

チェック項目・具体例の考え方について

Q11.取引相手を選ぶ際には価格以外の条件も評価している

該当の目標



◆ 製造工程を重視し、働きがいと経済成長を

取引相手を選ぶときに、価格は重要な要素です。一方で、近年は価格だけでなく、製品の原材料や製造工程が注目されています。人権を無視した過酷な労働環境で生産された製品は、貧困を促進し、経済成長を妨げます。価格だけでなく、原材料や製造工程にも着目して取引相手を選ぶことで、貧困対策や経済成長に繋がります。

Q12.廃材の一部を再利用するための工夫をしている

該当の目標



◆ 限りある資源を守ろう

人類がいまの暮らしをこのまま続けるためには、1.75個の地球が必要と言われてます。廃材の再利用など、限りある資源を有効に使う手段を検討することが、森林など豊かな陸を守ることに繋がります。



Q13.ごみの分別やリサイクルを意識または啓発している

該当の目標



◆ 捨てればごみ、分ければ資源

日本では、排出される廃棄物のうち20.2%（平成29年）がリサイクルなど再生利用されています。しかし、日本は人口1人あたりのプラスチック容器包装の廃棄量が、世界第2位です。ペットボトルや牛乳パックはそのまま捨てればごみ、洗って分別すれば再利用される資源になり、海や陸の豊かさを守ることに繋がります。

Q14.性別や国籍で採用・昇進に差をつけないことを意識または啓発している

該当の目標



◆ 日本の男女格差、G7で最下位

日本の男女格差は、主要7か国（G7）の中で最下位です。同じアジアの中国や韓国に比べても低く、先進国の中でも後れを取っています。同一労働・同一賃金など、性別によって採用や昇進に差をつけないことが、男女格差など不平等を減らすことに繋がります。

Q15.健康づくりを意識または啓発している

該当の目標



◆ 社員の健康が会社を元気に

事業を営むうえで、「ヒト」は最も重要な資源と言っても過言ではありません。社員が健康でいきいきと働ける環境を築くことで、良い仕事が生まれ、ひいては事業の成長も期待できます。そのため、雇用主が率先して社員の健康管理や運動の習慣化に取り組むことを意識しましょう。

Q16.定期的に社内研修や勉強会を開催している

該当の目標



◆ 社員教育で、会社も社員もいきいき

会社が教育に力を入れることで、従業員も自分の成長を感じることができ、働きがい向上に繋がります。社員教育をおこなう→社員が働きがいを感じる→会社が成長する。このような好循環を回していくことが大切です。社会全体でこの好循環を生むことが、雇用促進や経済成長へと繋がります。

Q17.ボランティア活動や寄付活動を行っている

該当の目標

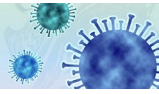


◆ 一つ一つの支援が大きな力に

地域清掃活動、高齢者支援活動、被災地募金、貧困対策募金などのボランティア活動や寄付活動は、環境問題や社会課題の解決・解消のために実施されています。1人1人ができることには限界がありますが、それぞれができる協力や支援が集まることで、大きな力となり、被災地支援や貧困などの各種課題や問題の改善に繋がります。

Q18.新型コロナはじめ感染症への対策をしている

該当の目標



◆ 感染症対策でみんなが安心・安全に

三密を避ける、こまめに手を洗う、アルコール消毒液を設置するなど、継続的な感染症対策の実施は重要です。1人1人の感染対策が、地域や社会で過ごす全ての人々の健康で安心できる生活を支え、住み続けられるまちづくりに繋がります。

Q19.地震や津波など災害への対策をしている

該当の目標



◆ 災害対策に「ゴール」なし

地震は突然起こるため、常日頃からの心構えと準備が必要です。災害への対策に「ゴール」はなく、常に新たな対策をし、アップデートしていくことが大切です。1人1人が、身の回りの災害対策を行うとともに、地域で助け合う意識を持つことで、まちの維持・発展にも繋がります。

Q20.ホームページやパンフレットに自社のSDGsに関する取り組みを掲載している

該当の目標



◆ 実践＋発信で、最大限の効果を発揮！

SDGsに関連する素晴らしい取り組みも、自社しか知らなければ、1社の取り組みで終わってしまいます。自社の素晴らしい取り組みをホームページやパンフレットなどで積極的に情報発信するなど、活動の環を広げましょう。

持続可能な開発目標(SDGs)の詳細



目標1 [貧困]

あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



目標3 [保健]

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標5 [ジェンダー]

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う



目標7 [エネルギー]

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



目標9 [インフラ、産業化、イノベーション]

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



目標11 [持続可能な都市]

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標13 [気候変動]

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



目標15 [陸上資源]

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標17 [実施手段]

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる



目標2 [飢餓]

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



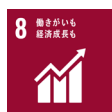
目標4 [教育]

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



目標6 [水・衛生]

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



目標8 [経済成長と雇用]

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



目標10 [不平等]

国内及び各国家間の不平等を是正する



目標12 [持続可能な消費と生産]

持続可能な消費生産形態を確保する



目標14 [海洋資源]

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



目標16 [平和]

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

外務省国際協力局 パンフレット

「持続可能な開発目標(SDGs)と日本の取組」より抜粋



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています